



筑紫路

発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目
61番地

Tel. 092-581-0431
ホームページ



「令和初の年頭に あたつて」

自衛隊福岡病院長
兼春日駐屯地司令
陸将補 松本 泰憲



新年明けましておめでとうございます。

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。前回一九六四年（私の生まれた年です）の東京オリンピックは、戦争を経験した日本が再び先進国として復活したことを象徴する大会でした。五十六年を経て先進国として成熟した日本が高齢化、人口減等の難しい課題に直面する中、今回の大会を通じて私たち自身が、日本や日本人の素晴らしさを認識し、挑戦する気持ちをも新たにできる機会になればと思います。自衛隊は前回同様この国家的行事を支援する予定です。令和の時代に入っても各地で地震や豪雨による大規模災害が続発していますが、昨年十月に発生した台風十九号に対する災害派遣では、当院

から医官・看護官各一名を派遣しました。兩名は三週間にわたり西部方面隊から長野県に派遣された五百名超の隊員の健康管理・診療を行い、任務完遂に寄与してくれました。当院は引き続き各種事態に即応し、医療で作戦を支えるため準備に万全を期してまいります。

最近の自衛隊衛生の話題をひとつ。昨年十月に陸上自衛隊衛生学校の医官二名がアフリカのウガンダに教官として派遣され、国連の平和維持活動（PKO）に参加する他国軍兵士に対して野外衛生救護に関する教育を実施しました。PKO参加国の野外衛生能力は必ずしも十分でなく、年間約百名の兵士が命を落としています。国連がこの状況を問題視して衛生救護能力の底上げを目的としたプロジェクトを立ち上げ、これに自衛隊が参加することになったのです。近年第一線救護能力の充実を図っている自衛隊の実力が国連から評価された結果であり、自衛隊の強みである衛生機能を活かした国際活動の新たな形であると思います。ラグビー日本代表の大活躍を反映して、昨年の流行語大賞は「One Team（ワンチーム）」でした。自衛隊福岡病院は令和二年も様々なプロフェッショナルが一つになつて病院理念である「隊員はもろろん国民の皆様から信頼される病院」を目標し、診療はもとより災害派遣等に対する衛生支援、部隊等と連携した教育訓練等に取り組んでまいります。本年も宜しくお願い申し上げます。

新年の御挨拶



春陽会会長
西川 博

新年明けましておめでとうございます。

美しく平和であるよう期待された令和時代の幕開けでしたが、自然災害は例年以上に甚大な被害となりました。この原稿を書いている最中にも多くの自衛隊員が災害派遣をしています。西部方面隊からも自衛隊福岡病院を始め多くの隊員が被災地で懸命の活動されていることに慰労申し上げます。度重なる災害派遣に隊員は十分な休暇を取ることも出来ずまた待機の緊張で心休まることもないのではと心配しています。こんな身を粉にして頑張っている自衛隊が法の下で明確な地位を保証される日を切望いたします。

さて、皆さん令和の新時代をそれぞれ特別な想いで迎えられたことと思います。私は雅子皇后が健康でそのお務めを無事に果たされることをお祈りしました。皇后が、これまでおの様に体調がすぐれないなら、国民の士気も上がらないと案じていました。果たして、それは全く杞憂でした。皇后は、全ての重責を果たされ、国賓との応対も余裕が感じられ

新年の御挨拶



最先任上級曹長
准陸尉 斉藤 賢孝

安心し尊敬の念を持ちました。「これまでの長い病状は何だったのか？」にコメントするのはおこがましいことですが、私は「本人の地位と自覚、使命感、こうありたいと思う希望」の発露だと感じます。ともかく両陛下下の船出が順調だったことは災害で苦しむ国民が数多いだけに明るい話題でした。念願だった自衛隊福岡病院の新館建設も井戸掘削調査の工事も始まり、建設に向けて目に見える段階に入ったと実感でき、これからの工事の進歩が楽しみです。

本年も、もしかしたら不測の事態があるかもしれません。それを乗り越えるには、自分自身と身近な人に対してこうありたいと強く願い実行することだと思っています。

皆様の希望が叶えられることと、本年が穏やかな年になることを祈って年始のご挨拶といたします。

新年明けましておめでとうございます。

病院長の統率方針に基づき准曹士一人一人が責任を持って、診療技術及び教育訓練の向上と何でも話せる風通しの良い職場作りを目指していく所存です。

そして、強固な団結と隊員の信頼の醸成を図り、准曹士の実力を付けて行きたいと考えています。

本年も隊員並びにご家族皆様のご健勝とご多幸を記念しますとともに

人事往来

〈転入者〉

《十二月一日付》
総務部

（会計課）

一等陸尉 水本 利孝

《十二月二十日付》

副院長兼企画室長

一等陸佐 大川 貴司

副院長



1等陸佐 大川 貴司
（前所属）
陸上総隊司令部
（朝霞）

陸上総隊司令部医務官より副院長に上番いたしました。今回で三回目の勤務であり、慣れ親しんだ病院で仕事ができることをうれしく思っております。専門は小児科です。

西部方面隊の基幹病院として、自衛隊員、ご家族の皆様そして地域の皆様の心身の支えとなるよう職務に精励する所存です。よろしくお願ひ申し上げます。

〈転出者〉

《十二月二十日付》
副院長兼企画室長

一等陸佐 清水 浩

（別府病院院長兼南別府駐屯地司令へ）



祝賀会食の様子



た　れ　し　る　は　不　可



子供たちも盛り上が